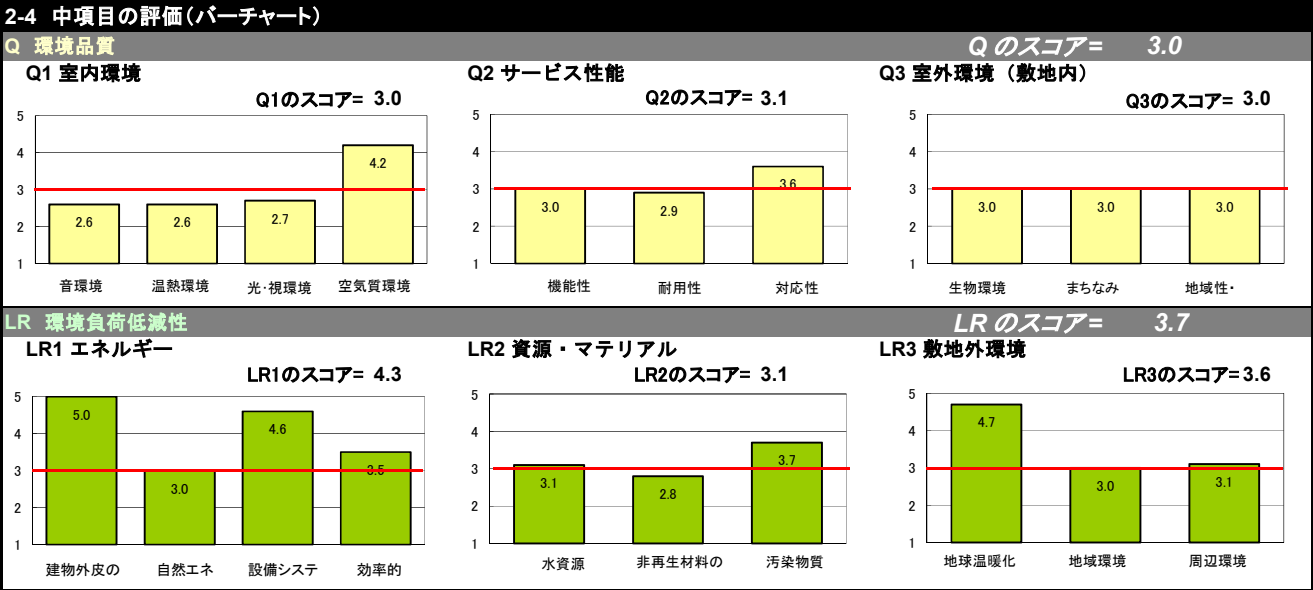
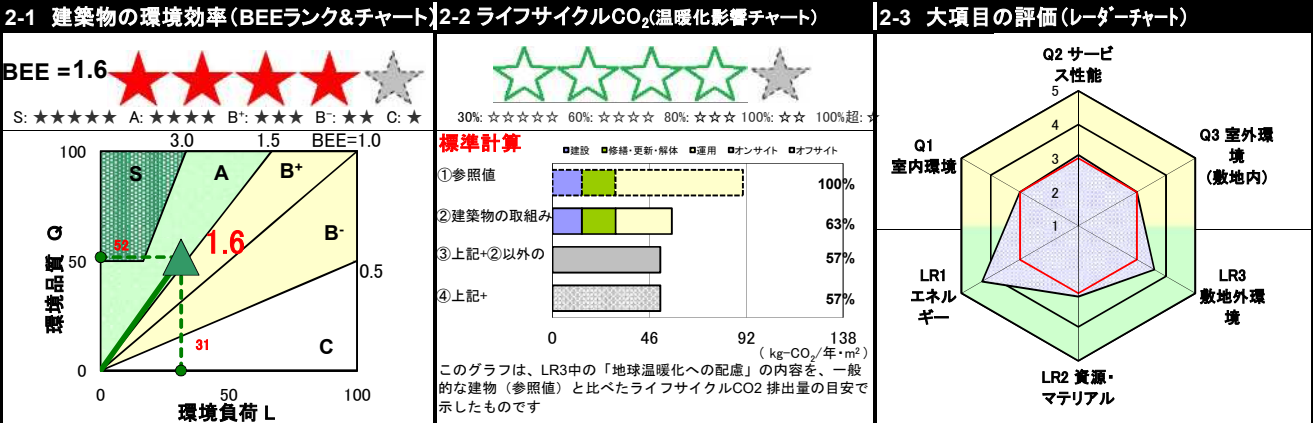


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	浜松ホトニクス(株) 中央研究所 第2計測棟 建設工事	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市浜名区平口字地ヶ谷5617-4、5610-4	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法第22条区域、土砂災害特別警戒区域	平均居住人員	15 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年5月 予定	評価の実施日	2025年1月28日
敷地面積	16,643 m ²	作成者	小野寺 司
建築面積	1,936 m ²	確認日	2025年2月26日
延床面積	1,909 m ²	確認者	河本 盾



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
コンプライアンスを遵守し、敷地外環境に危害を与えることなく建築物内の環境性能を高めることに配慮した。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
屋光利用やグレア抑制に積極的に配慮をした。使用する建材は全てF☆☆☆☆相当品、敷地内禁煙等空気室環境にも配慮された設計となっている。	機能性や空間のゆとりにより、建築物内を広く快適な空間とするよう心掛けた。またBCP対策としてバックアップ電源を確保し、事業継続の信頼性を得た。	敷地内環境が既存の緑地と生物に影響を与えることがないように充分注意して設計・施工を行った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
太陽光発電設備を積極的に取り入れる等、以前から行われているエネルギー消費管理計画に基づいて定期的にエネルギー削減に努めている。	資源を保護するため、節水装置の設置や汚染物質含有材料の使用回避を行った。	コンプライアンスに配慮し、騒音・振動・光害のないように努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要									
建物名称	浜松ホトニクス(株) 中央研究所 第2計測棟 建設工事				BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度									
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7	/5	     	ふつつ 					
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5	     	ふつつ 					
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5	/5	     	ふつつ 					
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5	     	ふつつ 					
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上 	がんばろう 3 点未満 				

3. 重点項目についての環境配慮概要										
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)					得点 3.7					
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ②倉庫内においてハイサイドライトを採用。 ④空調・給排水配管は硬質塩ビ管を採用し耐用年数を延ばした。				Q-1	2	2.1	2.2	①	外皮性能
					Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
							3.2	3.2.1	③	昼光制御
					Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
							2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
						2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
						2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
						2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
						2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
					3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑧ハイサイドライト・太陽光発電による自然エネルギーの利用。				LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
					2			⑧	自然エネルギー利用	
					3			⑨	設備システムの高効率化	
					4	4.1		⑩	モニタリング	
						4.2		⑩	運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水設備の導入。 ⑫主要構造部SS400採用、部材の再利用可能性向上の取り組みを行った。 ⑬硬質ウレタンフォーム断熱材の導入。				LR-2	1	1.1		⑪	節水	
						1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
							1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
				2	2.1			⑫	材料使用量の削減	
					2.2			⑫	既存建築躯体等の継続使用	
					2.3			⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
					2.4			⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
					2.5			⑫	持続可能な森林から産出された木材	
					2.6			⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
				3	3.1			⑬	有害物質を含まない材料の使用	
					3.2	3.2.1		⑬	消火剤	
						3.2.2		⑬	断熱材	
						3.2.3		⑬	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策を行った。				LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
					2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)					得点 3.0					
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰ダクト・配管の吊り込み方法は適選振止め支持とし負荷低減運転を可能にした。 給排水・衛生設備については井水を利用可能とした。				Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
								2.1.2	⑯	免震・制振性能
							2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
							2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
							2.4.3	⑰	電気設備	
						2.4.4	⑰	機械・配管支持方法		
						2.4.5	⑰	通信・情報設備		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)					得点 3.5					
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱衛生設備の清掃道具やスペースを十分に確保した。 ⑳倉庫空間を十分に確保するため階高7.3mとした。				Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
						3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
							3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ	
					Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)					得点 3.0					
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
						2			㉑	まちなみ・景観への配慮
						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
					LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
					LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善